

2025年9月発行

Unite いわて

個々別々



この度は、協会ニュースレターをお読みいただきましてありがとうございます。広報部会の中で話し合い、今号からニュースレターの名称を『uniteいわて』（ゆないといわて）と致しました。編集後記にも記載がありますが、より親しみやすく、皆さんに手に取っていただけるニュースレターの作成を目指していきたいと思っております。どうかご愛顧いただけますようよろしくお願い致します。

「ところで、皆さんが協会に入会されている理由は何ですか？」

以前、そう質問された時に私は答えをスッと出せませんでした。この質問は、平成28年に行われた岩手県医療ソーシャルワーカー協会総会・一般研修で、北海道協会の元会長関 建久さんが講演冒頭でお話しされていた言葉です。「先輩に誘われたから」、「協会主催の研修会に参加したい」、「診療報酬改定の情報について他病院から情報を得たい」、「飲み会が楽しいから」、「広報活動に参加したい」、「特に思い当たらない」等々様々な理由があると思います。関さんは、「協会に入会している理由は人それぞれ」とお話しされていました。当たり前と言えば当たり前ですが、その中で行われるのが職能団体としての協会活動なのではないかという趣旨の事をお話しされていたと思います。

さて、早いもので2026年6月13日、14日と岩手県盛岡市で開催される全国大会まで、300日を切ってきました。全国大会・実行委員会の活動も第5回の会議を終えて、大会の雰囲気や掴む段階はすでに終了して、実務を少しずつ前に前にと進めなければいけない時期に来ています。好むと好まざるに関わらず、その日はやってきます。

この大会を通して、私たちの協会、そして私たちは、何を得られるのでしょうか？そして、どのように成長していけるのでしょうか？全国大会・実行委員には、34名の方々が参加してくださっています。大会の大きなテーマは、『ソーシャルワークとウェルビーイング～「ほんとうのさいわい」をめぐる旅～』ですが、個々人にも参加テーマ（理由）があると思います。そして、私自身も全国大会後に自身の参加テーマを見つめ直して、これからのソーシャルワークや個人としての人生に役立てたい。大会テーマに倣って、全国大会・実行委員、そして協会員それぞれのウェルビーイングに繋がる大会にしたいと思っています。どんな大会が出来上がるのか、私自身も楽しみに活動させていただいています。もちろん、大会・実行委員は、まだ募集しておりますので、ぜひともご応募下さい。皆さんと一緒に活動できる日を心よりお待ちしております。

大会実行委員長 佐々木 章

岩手から飛び出した！大会応援マスコットが登場！その名も・・・

南部鉄器に包まれた
奥ゆかしき騎士



キジろう



&



かっぱ淵から全国へ！
ウェルビーイングの探究者

カパろう



この度、全国大会を楽しく盛り上げるために、**マスコットキャラクター「キジろう」と「カパろう」**が誕生しました！

岩手県の鳥“キジ”と、遠野市の河童伝説から生まれた、にぎやかで元気いっぱいコンビです。

既にInstagramを賑わせていますが、これからも一緒に大会を盛り上げていきますので、どうぞよろしくお願いします♪

全国大会 in 岩手

TOPICS!

2026年、岩手県で全国大会が開催されます。

第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会

第46回日本医療社会事業学会

テーマは、

ソーシャルワークとウェルビーイング ～「ほんとうのさいわい」をめぐる旅～。

私たちが日々向き合う「しあわせ」とは何か、
ソーシャルワークが果たす役割は何か——。
全国の仲間と共に学び、語り合い、未来へつながる
“ほんとうのさいわい”を探る2日間です。

開催日：2026年6月13日(土)・14日(日)

会場：盛岡市民文化ホール「マリオス」



東北の自然と文化に触れながら、仲間との新しい出会いと気づきを得られる場。
岩手で皆さまをお迎えできることを、心より楽しみにしております。



タスキはつながる、想いは広がる

2025年6月21日、22日に開催された三重大会のテーマは、

ソーシャルワーカーって・・・変わらぬ価値を受け継ぎ、新たな自分へ

当協会からは10名が現地に参加し、熱気あふれる大会の学びと交流を体感しました。
大会のフィナーレには、**三重県の高村大会長から、当協会の小泉大会長へとタスキが手渡され、
2026年岩手大会へ向けたカウントダウンが本格的にスタート！**



全国に受け継がれてきた大会の想いを胸に、私たちは「ほんとうのさいわい」をめぐる旅へ、新しい一歩を踏み出します。



全国大会を支える3つの力 — 実行委員会チーム紹介！

全国大会2026 in 岩手の開催に向けて、実行委員会が立ち上がりました！

大会を支えるのは、役割ごとに編成された **3つのチーム**。

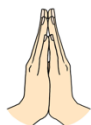
それぞれのチームが力を合わせ、皆さまにとって実り多い大会となるよう準備を進めています。



**学びをデザイン！
プログラムチーム**



**笑顔でお迎え！
おもてなしチーム**



**大会を動かす原動力！
マネジメントチーム**



講演や分科会を企画し、学びと交流
が深まる2日間をプロデュース。
「来てよかった」と感じてもらえる
プログラムづくりに挑みます。

参加者のみなさんが安心して楽し
めるように、心配りと温かさでお
出迎え。
岩手らしい雰囲気を感じていただ
ける工夫を準備中です。

会計、進行管理など、運営全体
をリードする推進役。
大会がスムーズに進むよう、
見えないところで確かな力を
発揮します。

実行委員 34 名（2025年9月現在）が3つのチームとなって一丸となり、全国の仲間を岩手へお迎えします。

2026年6月、「ほんとうのさいわい」を共に考えましょう！

協会の1日



地域に根ざし、人に寄り添う——
済生会岩泉病院・地域連携室の現場から



済生会岩泉病院
ホームページは
こちら

「どんな思いで仕事をしているのか?」「実際の1日の流れは?」

医療ソーシャルワーカーとして働く協会の日常にスポットを当てる本企画。

今回は、豊かな森林と清流に囲まれた岩泉町の地域基幹病院である『済生会岩泉病院』の地域連携室を訪ねました。

地域包括ケアの一端を担う病院で、患者さんやご家族に寄り添いながら支援を続ける医療ソーシャルワーカーの姿に迫ります。

日々の業務の中にある「工夫」や「やりがい」、そして「地域で働くことの魅力」とは——。

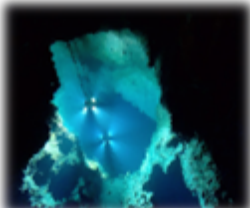
現場のリアルな声をお届けします。



済生会岩泉病院で医療社会事業士（以降MSW）
をしております、中嶋亮三と申します。平成27年
度に入職し、早や勤続10年となりました。“気付
いたらそんな年月が経ってしまった”という感覚で、
このような場で文章を残してよいのか恐縮ではあ
りますが、勤務する済生会のことや自身の業務内
容等について紹介させていただきたいと思います。

～病院の地域性について～

当院は岩泉町唯一の公的病院として、また宮古圏域や
近隣医療機関から社会的要請の受け皿となる後方支援
病院としての役割をもつ医療機関となっております。
昨年まで92床あった当院は、人口形態の変化に伴い
60床へ縮小しており、地域（岩泉町）でも介護施設
や介護事業所をみても縮小化または一部閉所と、
同時並行で進んでいるのがここ数年の状況です。



～地域連携室の体制について～

当院のMSWの配置は1名です。院内で“増やしてはどうか?”という話題が上
がったことがありますが、運営上の理由により残念ながらその話は流れてし
まいました。地域においても、介護の担い手の減少・高齢化がサービス提供を
困難にさせており、マンパワー不足が今まさに直面している課題です。そのよ
うな中で、“MSWを増やしてほしいです!”と言えない現状です…。

～主な相談内容・対象者について～

当院の患者さんの多くは高齢者ということもあり、その多くが生活再編の必
要が迫り、医師や看護師と連携を図りながらMSWが退院支援調整を行って
います。また、経済的問題への対応、患者さんのアドボケートを含む受診受療支
援、患者さんまたはそのご家族に状況に寄り添った対応（心理社会的課題）等
を行っています。

おかげ様で、地域の関係機関からは毎日幾度となく何らかの連絡が入り、対
応に奔走しております。と、理想のなごを並べていますが、対応内容には反
省はできませんし、複数ケースを同時進行で対応ということになると、どうし
ても人為的なミスや課題はある状況です。いかに業務を客観化した上で、優先
順位を作り、一つ一つ丁寧に取り組んでいけるかが求められているように思
います。



とある1日



- | | |
|-------------|--|
| 8:30 | 出勤～朝礼（事務にて朝礼） |
| 8:40～8:50 | メールチェック、当日業務整理および前日残務対応 |
| 8:50～9:20 | 病棟ナースステーションにてリーダーNsより
申し送り、情報収集および情報共有、当日対応確認 |
| 9:30～12:00 | 退院支援調整（関係機関との連絡調整）適宜入院患者
と面談、外来患者または家族と受診受療支援および
介護保険等の制度対応、退院調整看護師と協議共有 |
| ～昼休憩～ | |
| 13:00～14:00 | 予定チェック、関係機関との対応等 |
| 14:00～14:30 | 病棟多職種カンファ、または外来MSWカンファ、
居宅CMとの情報共有他 |
| 14:30～16:00 | 退院支援調整（関係機関との協議等）対応
適宜カンファレンスおよび各種会議対応
（担当者会議、個別ケース会議、地域ケア会議他） |
| 16:00～17:00 | 各種委員会（概ね月1回、その間の30分程度）
地域連携室会議、地域ケア部（訪問診療訪問看護）会議、
無料低額診療事業推進委員会、身体拘束最小化委員会、
NST委員会、患者サービス向上委員会、広報委員会他 |
| 17:00～17:30 | 記録およびMSW日誌～退勤 |

※ 緊急時およびご家族対応等の際は時間外あり

～病院の特徴について～

当院の母体である済生会の成り立ちは、「生活困窮者を救う」ところから
始まりました。現在でも、全国の済生会では「無料低額診療事業」と
『生活困窮者支援～なでしこプラン～済生会生活困窮者支援事業（以降な
でしこ事業）』加えてソーシャルインクルージョン事業を展開しています。
前者は基本的には非課税世帯（低所得ⅠおよびⅡ、区分オ）である患者さ
んをMSWが相談対応し、対象となれば医療費の10%減免対応するという
もので、後者のなでしこ事業やソーシャルインクルージョン事業では、そ
れぞれの地域性に応じた事業を展開するというものです。

当院のなでしこ事業として、地域の障がい者施設利用者の無料の健診お
よびインフルエンザ予防接種、若手保護院（刑余者）入所者への健康相談
およびインフルエンザ予防接種（無料）、地域の高校への病気に関する健
康講話、地域イベントにおける健康ミニ講話等実施しております。全国の
済生会の中では「ソーシャルインクルージョン事業」
として、イオンやユニクロとマッチアップした地域
づくりに取り組んでいる医療機関もあり、当院でも
地元の商店街や（岩泉ヨーグルトで有名な）岩泉乳業
とマッチアップした地域づくりが出来ないか?との
構想を…今は私だけの妄想ですが、5～10年後の長期
目標として温めているところです。



～今後の課題と展望について～

ここ数年の社会情勢上で課題に挙がっている「身寄りのない方への支援
について」当院でもこれまで数件対応しており、現在進行形で関係機関と
のケース会議を重ね、ご本人の気持ちや土台に支援の調整を図っています。
患者さん自身を中心に、一定の（医療機関含む）事業所に負担が集中す
ることなく、長期的な展望での伴走型の支援が求められているのだらうと
感じています。併行して、岩泉町では身寄りにない方への支援の動き方や
ガイドライン作成に向けて（岩泉町）地域包括支援センターと医療と居宅
介護支援事業所や施設等事業所と定期的に協議の場が始まっております。

困難ケースに直面すること多いですが、そういつた時間こそがとって
も貴重で多くの気づきを得られます。悩ましい状況から脱却する為に、い
かに一人で抱え込まずに、連携を図り、どう人と人、人と制度をつなげて
いけるかが大切だと感じています。当院では、えてして、社会的課題に関
してはMSWだけに求められ、負担になっていくこともあります。そこを
どう乗り越えていくか、その一つの選択肢に「今はまだできない!」と言
える勇気を持って伝えていくこともよくあります。いわば、その理由であ
る社会的ニーズが存在するという意識を持つことを含めて、ソーシャル
ワークの面白さの一つにあるように思います。この感覚は当協会の研修を
受けて学んだことの大切な一つです。

当協会における活動として、つなぐプロジェクトの皆さんが研修やアン
ケート調査、ケアマネ協会や議員との情報交換、マニュアル作成に向けた
取り組みを進めており、私も末端ではありますが、地域ごとの活動展開基
盤づくりグループにおいて、岩泉町での取り組みを中心に情報共有を図っ
ています。プロジェクトの皆様の精力的な活動や発信内容から大変刺激を
受け、また励みになっております。



※写真は町民福祉まつり（岩泉社協主催7月26日）での当院対応した健康
ミニ講話～健康相談～健康川柳掲示等～

～会員の皆様へ～

いつも大変お世話になっております。皆様、大変お忙しい日々を過ごし
ていることと思います。私自身、入職当初は医療ソーシャルワーカーの存
在は「病院になくてはならない存在」と思ってきましたが、そこから今は
「地域になくてはならない存在」となりたい…いや、ならなければいけな
いなど実感しております。

その為には、基本的なことになってしまいますが、その土台は自分自身
の健康が第一ですね。私自身気持ちにゆとりを持つ為、ライフワークであ
る音楽活動（クラシックギター演奏と息子へのピアノ指導）を日々行っ
ているのと、秋のマラソンシーズンに向けてウォーキングやジョギングに励
んでいます。色々な場面においても、一呼吸の「間（ま）」を大事に日々
過ごしてまいりたいと思います。

長々と書き綴ってしまいましたが、今後ともご指導のほどよろしくお願い
いたします。